

ガウディの国の市長

伊東豊雄
建築家

今

年の五月、スペイン各地で市長選が一斉に行なわれた。選挙直前になると、現役の市長は自らが進めているプロジェクトを市民にアピールしようと懸命になる。日本と違うのは、公共施設をつくるのが彼等のポイントになると信じていることだ。だから多少前倒しをしても、建築や公園の起工式や竣工式を選挙前に行なうケースが多い。

今回の選挙で見事再選を果たした市長の一人にトレヴィエハ市のペドロ・ヘルナンデス・アテオ氏がいる。トレヴィエハはバレンシ

ア地方の地中海に面した人口六万ほどの小都市である。七年前私たちはこの街で「リラクゼーション・パーク」の設計を依頼された。敷地は海から少し内陸に入った塩水湖の畔である。この辺りは温暖な気候で、夏にはバカンスを楽しむリゾート客で街は膨れ上がる。また北ヨーロッパからリタイアした高齢者が多く住み着いている。そして湖畔の砂を掘って身体を埋め、セラピーを行なっている。そこで市が市民や観光客に利用してもらおうという目的で企画したのがこのスパ施設である。

敷地全体を風紋のような波打つランドスケープとし、ここに三棟の大きな巻き貝の形状をした施設が置かれたプロジェクトを提案した。当時、既に市長であったアテオ氏は大変気に入ってくれた。あれから七年、プロジェクトはとっくに完成しているはずなのに、現在まだ八割方出来たに過ぎない。これは私たちの提案が、スパビル状の構造体を持ったとても難しい建築であったからである。施工に手間がかかるし、工事費も高い。三棟分の予算が一棟も出来ぬうちに尽きてしまったのだ。日本だったら市長も我々も議会でひどい吊るし上げを食っていただろう。

でもマテオ氏は平気である。「面白いから思う存分進めてくれ。不足のお金は必ず自分が調達してくれるから……」。このたびの選挙用のチラシにはこのプロジェクトの写真が大きく掲げられ、その完成が公約に謳われていた。ガウディの国ならではののおおらかさが、建築家としてはうらやましい限りである。